



「週に1回、Doctionary!」
むげんだい

夢限大∞



「協力」 「礼節」 「友愛」

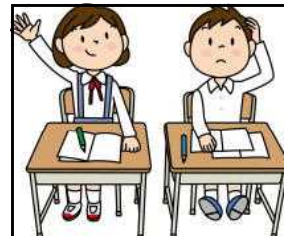
<http://www.kizu.ed.jp/kizu2-jhs/>

木津川市立木津第二中学校

令和元年6月4日(火) vol.8

なぜ勉強しなくてはいけないのか？

この問いに、どう答えますか？「高校に行くため」とか「将来に役立たせるため」と答える人が多いかもしれませんね。この問いに対し、「現代の魔法使い」の異名を取り、今最も期待される研究者として各界から注目を集めている“落合陽一”氏の答えを紹介したいと思います。



僕は、勉強をする理由は、**新しいことを考えたり、新しいことを身につける方法を学ぶためだ**と思っています。特定の勉強の内容そのものよりも、**勉強し続けることを止めないこと**のほうが重要という価値観を持っているのです。

「学校の勉強なんて社会に出たらまるで役に立たない」とよく言われますが、その考え方の大きな間違いは、教育にある「**コンテンツ**」と「**トレーニング**」という2つの要素のうち、後者のもつ意味を正しく認識できていないことです。学校で学ぶ数式や漢字（**コンテンツ**）も大事ですが、それ以上に学習する訓練（**トレーニング**）を怠っていたら、社会に出た時に新しいことを学習する方法がわからずに、自分の経験を使えない人になってしまうのです。

何才になっても新しいことを身につけられるスキルはどうやって培われるのかというと、若い時にいかにたくさん**新しいこと**を習得しようとしたか、それを実際の現場で使おうとしたか、つまりたくさん勉強し**実践**したかどうかだと思います。実際、たくさん勉強をした経験のある人のほうが、新しい物事を習得するのが得意ですし、覚えるまでの期間も短い傾向にあると思います。

それは自分なりの**学び方**と**アウトプットの方法**を知っているからでしょう。新しいことを学ぶ必要がある時に、「どう学ぶのが自分にとって**効率的**か」を知っていると非常に有利になります。そのためどうやってその状態に自分を持っていけるかを考えながら、常に勉強し続けることが大事になってくるのです。

「0歳から100才まで学び続けなくてはならない時代を生きる学ぶ人と育てる人のための教科書」
落合陽一 著／小学館

中学生時代の勉強は、すぐに将来の仕事に直結するとは限りません。しかし、「勉強する」ということは、将来「仕事」をする上で非常に重要です。中学生時代に「勉強する」ことを**習慣**にしていた人たちは、社会に出ても抵抗なく仕事や関連することについて勉強することができます。

逆に、勉強から逃げていた人は、社会に出てから苦労します。大人になったらしっかりやる？とか、お金をもらったらしっかりやる？と考えている人はいませんか。大人になったからといって、急に勉強ができる



ようになるわけではありません。自分で**意識**を変えない限り、勉強するクセというのはなかなかつかないものです。アメリカで有名な自動車会社を設立したヘンリー・フォードが、次のような名言を残しました。

二十歳であろうが八十歳であろうが、学ぶことををやめた者は老人である。学び続ける者はいつまでも若い。人生で一番大切なことは、若い精神を持ち続けることだ。

一方、春秋時代の中国を代表する有名な思想家の孔子（こうし）は、

15歳で学問を志したと記録されています。大切なことは、いつ何を学んだかではなく、どのような**学び方**をしたかなのでしょね。学ぶことを**習慣**にし、**よい学び方**を意識していきたいですね。

子（し）曰（いわ）く、吾れ十有五にして学に志す。
三十にして立つ。
四十にして惑わず。
五十にして天命を知る。
六十にして耳順（したが）う。
七十にして心の良くする所に従って、矩（のり）をこえず。

（訳）わたしは十五歳で学問に志し、三十になって独立した立場を持ち、四十になってあれこれと迷わず、五十になって天命をわきまえ、六十になって人のことばが素直に聞かれ、七十になると思うままにふるまってそれで道はずれないようになった。

